

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Low periconceptional dietary intakes among Japanese women: the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

日本人女性における妊娠前後の低食事摂取量: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 大阪ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Nutritional Science and Vitaminology

2022 年: DOI: 10.3177/jnsv.68.260

筆頭著者名: Ehab S Eshak

所属 UC 名: 大阪ユニットセンター

目的:

本研究は、日本人女性の妊娠前後食事摂取量の変化を評価することを目的とした。

方法:

エコチル調査の参加者のうち、2つの時期に配布された食物摂取頻度質問票(FFQ)を回答した単胎児の母親を対象とし、妊娠前の食事摂取量を評価する FFQ1 と妊娠中の食事摂取量を評価する FFQ2 の結果を比較した。統計分析は、2つの FFQ から算出された食品群、主要栄養素及び微量栄養素の絶対摂取量の平均値と標準偏差並びに中央値と四分位範囲について実施した。

結果:

妊娠前と妊娠中のエネルギー、主要栄養素、微量栄養素の摂取量は、日本人女性の推奨レベルより 1%から 49%低かった。妊娠中の女性の食事摂取量は、牛乳、乳製品、カルシウムを除いて、妊娠前の摂取量よりも少なかった。妊娠中の女性の食事摂取量の減少は、妊娠前の摂取量と中程度の相関関係があった。妊娠中の女性の約半数は、妊娠前と同じ摂取量の四分位数ですべての食品と栄養素グループに留まった一方で、約 1 割の妊婦において、妊娠前と比較して妊娠中の摂取量が 50%以上(上下に 2 四分位以上)変化した。

考察(研究の限界を含める):

本研究は、サンプルサイズが大きい中で、高い回答率と追跡率であることに加えて、同じ女性における妊娠前と妊娠中の食品・栄養素摂取量を評価した包括的な FFQ を用いたことから母体の特性による交絡が最小限に抑えられたという強みがある一方で、妊娠前の食事摂取量は思い出しバイアスが推定値に影響を及ぼしている可能性がある。本 FFQ の再現性・妥当性は中年女性で検証されているものの、妊婦では再現性・妥当性が異なる可能性がある。

結論:

本研究では、日本人妊婦の妊娠中の食事摂取量が少ないことが確認された。日本人における妊娠前後の食事及びサプリメントのガイドラインを改定することが望まれる。